

第5回全国グライダークラブミーティング議事録

日時:2017/10/14 13:00 - 17:00

場所:たきかわスカイパーク B1F 会議室

参加(敬称略)

(公社)滝川スカイスports振興協会(SATA)	日口
(公社)日本滑空協会 インストラクターマニュアル委員会	相島
関西エアロスportsクラブ	佐志田
中部日本航空連盟	吉田茂、佐々木
(公社)長野グライダー協会	小高
(公財)日本学生航空連盟	江澤
NPO 関宿滑空場	篠原
(公社)日本グライダークラブ	吉田正、丸山
(公社)宮城県航空協会	齋藤

会議次第

- 各クラブからの報告
宮城、JSC、NPO 関宿、日本学生航空連盟、長野、中航連、関西エアロ、SATA
- JSA からの報告
インストラクターマニュアル委員会、安全委員会、その他
- 今後のクラブミーティングの方向性

1. 各クラブからの報告

(1)宮城県航空協会

2016年5月の事故対策として、新たに高高度飛行シラバス及び高高度飛行実施必要経歴を作成。
宮城県教育委員会(公益法人の主管窓口)から事故報告書を踏まえた報告書提出が要求された。

・対策について

飛行経歴管理

wave フライトシラバス及びエリア別必要経歴表を作成
必要条件を示した

内容についてアドバイスをお願いしたい

Q. EDS で FL230 は高過ぎでは?…FL180,~200 位が妥当?

・佐志田氏から wave フライトを行っているクラブのアンケート結果を公表

Mode-C, Mode-S 装備機状況(計画中を含む)

長野	9機	約10名
板倉	5機	約10名
宮城	6機	約10名
滝川	14機	約30名

・パイロット管理の問題は深いテーマになるので別途時間を取ってディスカッションをする必要がある。
(今年度は時間が無くそこまでは出来なかったので来年度以降のテーマか)

・DWW(Dancing with the Wind)を読むことを推奨

<http://amzn.asia/9XInRe8>

(2)日本グライダークラブ

近年クラブで取り組んでいる安全への取り組み、滑空界向けアウトプット、場外離着陸申請の相互情報交換、インターネットの活用法について、報告

・板倉滑空場の安全対策について

昨年12月にクラブ内で実施。人の入れ替わり(10年で半数)がある。事故が風化する。
オペレーションハンドブックの項目の「何故」が風化する

2度の死亡事故を踏まえた対応策、ヒヤリハットからの対策仕組み化紹介
気がついたことはこまめに情報共有 複数の目でモニター 事実を積み上げていく
事実を元に本人に考えさせる

- ・板倉滑空場から滑空界へのアウトプットについて
若手施策

ラインボーイ実績(実施から10年、年間40名平均)参加者から毎年1-2名の20代会員入会
ユース料金(各クラブのユース料金状況実態調査、韭崎以外に対して競争力のある価格設定)
ホームページでの関連情報公開、SNS発信

インターネット情報の充実(ホームページ、twitter、検索広告)
ページ訪問者増、入会者増
「入会者は皆ホームページをよく見えています」

各種講習会

EMFT講習	外部参加 10%
教育証明座学講習	外部参加 50%
整備講習	外部参加 80%!

これからも告知を積極的に実施、どんどん参加してください
とくに整備については日本唯一の受験コース。ニーズ非常に大きい

(3)NPO 関宿

H28 事業報告書、トラブル事例について報告

- ・曳航機メンテナンスに大きな支出
パイパー

羽布張り替え(オラテックス材) 660万円 ポーランドからエンジニアを招聘
樹脂製 20年くらい?

ロバン

エンジン残り 50時間
交換 800万円(4枚ペラ含め)

- ・曳航回数 年に1,800回程度
複座が多いので回数が安定している
冠水が少なかった

Q. 曳航機の使い分けはどのように?

A. 通常は、ハンガーから出しやすい方:カブを使っている。(ロバンは大型の台車に乗せているので取り回しに難)、但し、路面が悪い時や強風時、及び重い機体(Duo DiscusT)がある時は、ロバンを使用しています。

- ・年間予算

2,400万円 内、格納庫等の土地借用料 600万円(過去40年毎年)
エンジン交換に地主様から支援を戴いた(100万円)

- ・ヒヤリハット8件

上空接近事例
着陸後の地上ギアアップ

- ・騒音苦情

ミラーで地上から妨害を受けた
警察に連絡、すぐに対応してくれた
後日空港事務所に苦情が行ったらしい

- ・野田市議団が滝川を視察訪問

市議と滑空場の防災利用などについて話し合い。滝川の利用事例を視察してもらった
NPOの理事と野田市議団で滑空場の活用について打合せをした。

(4) 日本学生航空連盟

安全対策、ヒヤリハットについて報告

・昨年 10 月の墜落事故対策

メンタルトレーニング

大学の名誉など無理をしたのでは？

メンタルテスト 対策までにはっていないが傾向値をとる

フルスピントレーニング実施

低空でのサーマル旋回禁止

ダウンウインド 280m でコール、着陸モードへとスイッチを入れ替えさせる

重心位置中心前後 5% 指示

見直し要望有り

空中接近(ガグル)

競技会 50 - 200 時間経験

垂直 150m 水平 500m

マナーが改善されたら見直し

現時点では練習時(教官同乗)もクリアランス維持

今後検討したい

(5) 長野グライダー協会

・高齢化から世代交代が進み始めた 30-40 代へ

・事務局長の後継者問題が課題

地元対応、

・信州大学 航空部復活、1-2 年生 4 名ほど、活気が出て良い

・地元練習生 3 名

ホームページを見ての入会。従来は東京会員が多かったので良い傾向

・SZD55 オーバーホール

エルロン取付に不具合があった(クラブリベレなどと同じで、構造が複雑)

舵角、音で気がついた。分解時、要注意

(6) 中航連

・飛驒 対地 300m でコール

・EMFT 10 年以上実施 毎年

・飛驒での活動の方がヒヤリハット多い

MG とのオペレーションとかぶる

・ガグル

積極的に練習させている

(7) 関西エアロ

・2018 年 5 月で解散予定

60-70 代 約 30 名 世代交代が出来なかった

・石見空港でグライダー機体展示を実施

(8) 滝川

ヒヤリハット、TGCM の結果について報告

・クラブとしての弱みを認識

ヒヤリハット 今まででしていなかった(スタッフ間で共有できているため、必要が無かった)

今年から実施することにした。いろいろなことがわかって来た。

・EMFT, アクロ

スタッフが身につけることにする
3年間櫻井さんに来ていただく。2年目

・事業用取得

指定養成取得を考えている

試験官教官が受験生を理解した上で実施できるなら意義があると考えている
試験官教官が指導を出来ない？要確認
(学連などは指定養成期間中以外は普通の指導しているので何かの違い？)

・青少年会員の入会

高校1年生(ハーフ)

NZ ユースキャンプ参加予定

16歳 学校に推薦書を出して休みの取り方について相談
札幌在住。本人がホームページで探してやってきた

マイケル君(両親ともに外国人)

中富良野在住

親が探してやってきた

自分のやりたいことがしっかりしている
子供のやりたいことに対して親が熱心
地元では無く、ホームページで探してやってくる

グライダーパイロットに適したメンタリティー

こういったメンタリティーのユースをどのようにすれば育てられるか？グライダーの世界に
引き込めるか

・電動模型航空機(F5B、F5D)世界選手権誘致決定

2018年夏 10日間

選手30人、スタッフ含め200人が訪れる予定(外国人は50人ほどか)

国際大会開催ノウハウの取得(将来的なグライダー国際大会開催に向けて)
ピンテージプロジェクトを通じたつながりから誘致につながった

・TGCM 過去3年の開催から得られたこと

何故競技をするのか？

以下の3ステップ

ソアリング

クロスカントリー

競技

人によって、どの段階までやるのか、分かれる

ウエザーの料理方法を皆で開発する

何故開催されないか？

クロスカントリー文化

未成熟

主催者 負担

安全に対する考え方(人と競うもの？)

レースは楽しいのでやりたい

必要なことからやってみる

規制面

競技会としての骨格

ルール、TPづくり

スタッフ

10名以下で可能

競技会としての骨格はできた

オフィシャルサイトに必要な資料はアーカイブ

助成金取得ノウハウ

小さいものは町の企画課が持っている。情報収集

ボート/競輪関連の大口は難しい

toto についてはノウハウが出来てきた

小さな協賛を探す

今後の課題

・滝川でのヒヤリハット

従来レポート集計を行っていなかった

今年から実施。3,000 曳航で 11 回。約 300 回に 1 回のヒヤリハット

課題

パイロット管理は難しい

機体の課題はレポートされたらすぐに確認して対処しておく

曳航時のダイブ手添えは明文化した方が良いか

・テレメータシステム

速度計をカメラ撮影して、リモートで画像伝送

ラジコンやドローンの分野で進んでいる

利用例 ウインチ曳航しながらウインチオペレーター側で曳航速度を確認できる

(10/14 ここまで)

10/15 9:00 – 12:10

(9)JSA の各委員会、学連より報告

・インストラクターマニュアル委員会

IM 進捗状況

各国マニュアルを比較、マニュアルの体系化の必要性を感じてきた

工学のマニュアルが不足している

BGA Gliding を抜粋翻訳するか？

Derek Piggott Understanding Gliding (滑空工学入門)を復刊させるか？

練習生用マニュアル

風を聴け とインストラクターマニュアルで異なる部分がある(例 旋回失速のリカバリー)

インストラクターマニュアル委員会の進捗を報告するホームページを作成してはどうか？

滑空協会ホームページ内にページを作成することは可能

・安全委員会

事故対策の呼びかけ(口うるさいことを言うスタンスも必要か)

・滑空協会体験搭乗プレゼント企画…卒部学生→社会人クラブへの移行策の一つとして試行

地方大会表彰者へのプレゼント企画

今年は予算化していないのでまずはこぢんまりと3団体でスタート

方向舵、SNS で感想を拡散してもらおう

・学連

・方向舵に社会で活躍している OB/OG 記事を掲載している

学連のスポンサー企業の川重、ANA、タカギなど

企業が良い人材を採用する事に繋げることが目的

方向舵へ社会人クラブの広告掲載、社会人クラブで飛行している OB/OG の記事掲載はどうだろうか？

良案 クラブミーティングとして是非検討したい

・学連への入部 200 名、卒部 100 名

滞納金 20 万位ある さらに奨学金(学生半数くらい)返済

卒業時の経済的負担が高い。卒業後も

- ・滑空協会ホームページ更新について
滑空界の情報プラットフォームを目指す
様々な情報を一元化する
アクセス数を増やす

- ・ヒヤリハットレポートシステム
まずは投稿フォームを作成
運用方法(集まった情報の整理、公示)を今後検討する
安全情報掲載ページを作成した。今後掲載内容を検討していきたい

- ・XC 分科会
 - ー 昨年のアクションアイテムレビュー
 - FAI タスク
 - 長野からの FAI タスクを設定
 - 不時着場
 - 東北エリア版作成
 - 公開方法を検討したい
 - XC 分科会のホームページを作る
 - アウトランディング場 google map を作成する

<まとめ>

- ・クラブ毎のノウハウが共有できるようになってきた

- ・良いプランが紹介されると、各クラブで導入されるようになってきた(例 若手支援の為のユース会員制度など)

- ・今後のクラブミーティングの方向性
 - 何らかの JSA オーソライズは欲しい…でも、委員会方式は合致しない気がする
 - 話し合いの場はとても重要なので、この場は継続したい
 - 自分たち自身が滑空協会。声を上げて、自分たちで分担して実施していく
 - 滑空協会総会を魅力的にしたい、クラブミーティングとセットで？
 - セットは難しい、
 - 人数が多いと話し合いは難しい。カンファレンス的に、紹介がメインになる
 - 滑空協会総会と、公益法人総会の日程がかぶってしまう(長野、宮城)
 - 日程調整を出来れば参加しやすくなると思う
 - 早めに日程を発表するようにして、可能な限り調整を試みる

- ・次回開催
 - 時期 同一時期で(10月後半から11月中頃まで)
 - 広島 or 大野 or 九州
 - 西の皆さんを巻き込みたい

- ・その他
 - 滑空協会の会員制度について、このままでよいのか？
 - 仮に団体会員にするとしたら、クラブは個人会員の取りまとめイメージ
 - 各クラブ人数毎に会費が変わる、など
 - 移行を考えるのは本当に難しい、現時点では簡単な課題では無い

- 各クラブのパイロット管理をどのようにしているか？
次回テーマにどうか？